



相模女子大学 × 福岡県糸島市
2019年度 糸島プロジェクト
～女性の働き方を考える～



目次

1. 糸島プロジェクトについて
2. 1年の流れ
3. インタビュー（夏）
4. インタビュー（冬）
5. 夏訪問 写真
6. 相生祭 写真
7. 冬訪問 写真
8. お世話になった方々
9. プロジェクトを終えての感想



1. 糸島プロジェクトについて

「糸島プロジェクト」は学生が福岡県糸島市で暮らす人や働く人に直接インタビューすることで**女性の多様な働き方**を調査・研究するものです。そしてそこで生じる課題や解決策を模索し、**社会における女性、または自分自身の人生形成（生き方）**における気づきや考え方をもち、**自らの進むべき道を見つけ出す人になる**ことを目的として1年を通して活動します。2019年度のミッションとしては以下の3つが主に挙げられました。

▶糸島で暮らす・働く人たちへのインタビューを通じ、「これからの女性のはたらき方」を見つける。

▶糸島の人や地域の魅力を情報発信する。

（『相模女子大生から見た糸島の魅力紹介冊子』の作成）

▶チームビルディングの構築。学科・学年を越えた多様なメンバーが同じ目標に向かって協働する。

糸島は島と思われがちですが、福岡県福岡市のすぐ隣にあり、佐賀県との県境に位置します。そして福岡空港から電車で一本、40分という速さで到着します。**アクセスの良さ**は糸島が移住したい町 No.1である大きな理由の1つです。また、アクセス面だけでなく糸島市には**山、海、平野**があるので豊富な食材が手に入ります。これも糸島の大きな魅力です。



2. 1年の流れ ～2019年度～

5月

2019年度「糸島プロジェクト」参加メンバーを募集

6月

参加メンバー決定

- ・プロジェクトの1年の流れを確認
- ・同時期に Facebook 始動

9月

糸島 夏訪問 (9月15日～18日)

- ・糸島で働く方々に直接会ってインタビュー
- ・KADOKAWAさんとの冊子制作も進行

11月

文化祭「相生祭」にて糸島ブース出展 (11月3日～4日)

- ・糸島市、特に産直市場福ふくの里で売られている商品を中心に販売
- ・KADOKAWAさんとの冊子完成、ブース内で配布

2月

糸島 冬訪問 (2月25日～28日)



3. インタビュー(夏)

～ウミネコ商事合同会社:高橋奈月さん～【担当:深澤】



高橋さんは私たちの学校がある神奈川県に住んでいた時もあり、色んなお仕事を経験しましたが、ワクワクする仕事に出会えなかったそう。移住して、子育てをしていくうちに、好きなことを仕事にしたいと考えるようになり、定時で上げられる仕事を探すも見つ

からず、それなら自分で出来るのではないかと考え、「起業」をしようと行動したそうです。自分から色々動いたというお話を聞き行動力に感銘を受けました！自分のライフスタイルにあった仕事を自分で作り上げている姿がとても素敵でした。自分たちも将来子供ができた時そういった生き方、働き方をしたいなと思いました。

～惣菜畑がんこ:柚木マスミさん～【担当:鎌田】

イベントで野菜が売れたのがきっかけでお店を始めた「惣菜畑がんこ」。がんこさんの愛称で親しまれていて会うだけでパワーがもらえるような柚木マスミさんにインタビューさせていただきました。「ご縁をいただくために、いろんな方に出会うために自分から行動する」というお言葉が心に残りました。このお言葉から、自分から行動することの大切さを学びました。また、それによりできた人との出会いを大切にし、お互い励まし合い、助け合える繋がりを築けるようにしたいなと思いました。この「金山寺納豆」オススメです！



～前原東中学校:久保亜沙美先生～【担当:田中】



久保先生は大学卒業後、福岡空港で客室乗務員として働いていたそうです。そんな中、さらにクリエイティブな仕事をしたいと思うようになり、教員になることを決めたそうです。中学校を選んだ理由は、生徒が英語に触れる最初のお機会なので楽しい授業をして英語を好きになってほしいという思いからとのこと。「生徒一人一人に合ったコミュニケーションを取る」というお話が印象に残っています。

そうすることで上手く子どもたちと向き合えるとのことなので、今後の教育実習等で実践していきたいと思いました。

～マイタウン伊都:圓尾容子さん～【担当:田中】

圓尾（まるお）さんは観光課のある専門学校に通われ、その後旅行会社に勤めたそうです。現在はフリーマガジン「マイタウン伊都」の編集をされています。「糸島をブームで終わらせず、ブランドとして残していく」というお話が印象的でした。地方出身の自分にとって、自分の地元はブームなのか、ブランドとして確立できているのか、どうすればブランドにできるのか考える機会になりました。

「好きなことじゃないと頑張れない」「今は無理して探す必要はない」という言葉も心に残っています。就活を控えた私たちには学ぶことの多いインタビューになりました。



～ダンザパデーラ:平野ご夫妻～【担当:吉原】



店名「danza paddella」は、“楽しく踊るように料理がしたい”という想いからつけられた名前。仕事をやっていく上でのモットーを公表しているようでいいなと感じると同時に、ご自身のお子さんたちに、楽しんでお仕事をしている姿を見せたいと話していたのも印象的でした。

糸島野菜を使用したり、子連れが多いお客様のニーズに合わせてアレルギー除去を気遣った料理の提供をしたり、ビュッフェ形式にし、閉店前の決められた時間には、お弁当に詰め放題での販売を設けるなど、お客様を大切にするお気持ちと工夫が込められた唯一無二のお店でした。生き生きと仕事をされる様子が伝わり、私もこんな仕事ぶりをしたいと感じました。

～地域おこし協力隊:佐藤美奈子さん～【担当:松下】

佐藤さんは糸島の魅力に惹かれ、現在は地域おこし協力隊としてお仕事されています。「なんでも直感でいく」という、周りを気にせずとにかくしたい！と思った事に挑戦してみる事が大切だと聞いて、悩まずにまず行動する事が第一歩に繋がるのだと勇気を頂きました。また、「好きな事を仕事にすると嫌いになってしまう場合もある」という言葉で今まで好きで続けてきた事が違うと思ってしまった時でも、迷わずに次に進む決断をする事が大切だという事を学びました。相手を想い、自分の選択を信じる人になるという大切さを教えて頂きました。



～糸島ゲストハウス前原宿ことのは：野北佳奈さん【担当:中村】



野北さんはこれまでに、様々な国に渡りました。人と人のご縁を受けるだけではなく、自分からも発信できる人になること、今置かれている環境に感謝することが生きていく上で重要であると教えてくださいました。「生きがいは日々快適に過ごせる毎日（旬

のものを食べること）、ピラティスの感想をいただくとき、チャレンジ精神があること」とお話しをしてくださったことがとても印象に残りました。自分の好きなことをすることとその時間までもが大事なことで、今はインターネットが主流であるけれど自分の時間を大切にしようと思いました。

♡ちよこっと夏訪問オフショット♡

KADOKAWA さんご協力のもとチラシのモデルを一人一人体験させていただきました！



↑実際に完成したチラシ



4. インタビュー(冬)

～OZ Company:堤千秋さん～【担当:深澤】



堤さんは福岡県出身の方で3女1男のお母さんです。OZ Companyで働く前は8年間幼稚園の教諭をして子育てを機に専業主婦を10年していました。去年からOZカンパニーで働いています。はじめ幼稚園教諭を仕事とする中で、「背伸びをしていて小学校教諭を仕事

にしていたら自分自身がきつくなっていたかなあ。ちょっと自分に余白があった。」とのこと。そのちょっとした余裕が楽しむこと、頑張ることに繋がると仰っていました。その小さな余裕から『イマジネーション→アイデア→やってみよう』と正のサイクルができているんだなあと感じました。

～オフィスパル(TABIcafé):吉川直子さん～【担当:鎌田】

吉川さんは2017年7月12日にTABIcaféを開業され、「暮らすように旅をする」という旅のポリシーを掲げ、お仕事をされています。インタビューでは「海外に関心はあるが、何をすべきかわからない」と質問を投げかけると、「日本の固定観念を捨て、色々な世界の価値観を持ち、宗教や文化などを知ること」「自分の好奇心を大切にし、なんでもいいから調べること」と答えて下さいました。私は、少しでも気になることがあったら調べ、自分の知識となるように学んでいこうと思うようになりました。



～DOREMI クラブピアノ教室:牧園和香子さん～【担当:松下】



牧園さんは自宅で子育てをしながらピアノ講師としてピアノ教室をされています。主に子育てについてお話を聞くことができました。「子供の好きな事に寄り添って自分でも行動する事」。それはできないことでも経験し、失敗する事でそこからどうするのか、できない理

由を作らず、困難に立ち向かったらそこからどうやったら達成できるのか。常に向上心を持ち取り組み続ける大切さを教えて頂きました。

～アロマの工房香の宮：阪井麻紀さん～【担当:水木】

アロマを使ったお仕事をされている阪井さんですが、アロマを知ったきっかけが「アロマをたくと妊娠する」と聞いたからだそうです。

それから勉強を始め、アロマで色々なものを作れると知り、その話を広め周りの母親同士で集まりみんなで作るようになったのがお店を作るきっかけだったそうです。

阪井さんはとても好奇心旺盛で、「もらったものをそのまま受け取るだけでなく、そこから何か作り上げられないか考え応用する。」という言葉にとっても感銘を受けました。話し上手で聞き上手な阪井さんのような大人になりたいと切実に思いました。



～カフェ RUSTIC BARN:野見山昌子(マコ)さん～【担当:吉原】



カフェでの接客で心掛けていることは、お客様の“心を開かせること”と話すマコさん。これは自分自身も楽しいし、「もっとこの人と話したい!」と思わせるためにとても大切なことです。アルバイトでも私生活でも意識し、実践しようと考えさせられました。

他にも、“どんな楽しみがあるか分からないから、興味があることは何でも試してみること”という言葉も響きました。私自身、この活動を通して行動力がつき、勇気をもって挑戦したことがあります。それによって視野が広がり、やってよかったという体験をしました。こんな経験を1回2回にとどめず、もっと意欲的に取り組んでいこうと改めて感じました。

～写真家：亀山ののこさん～【担当:水木】

亀山さんは写真を仕事にできてとても幸せだとおっしゃっていました。20代の頃はお金のため依頼された仕事は全て受け入れていたとのこと。ただそれは楽しく撮っていたあの頃と違うと感じたそうです。しかし、ネパールに訪れ写真を撮っていた時、自分は写真が大好きなのだと思い出しました。そこで日本に帰国してから、自分の発信したいものを撮ろうと思ったそうです。好きなことを仕事にするのはとても大変なことだと思いますが、亀山さんはその中でも強い意志があったから今ここまで来られているのかなと思いました。



～地域おこし協力隊：藤瀬美由紀さん～【担当:中村】



藤瀬さんは観光活性化を目的として、情報や魅力を伝えることをお仕事とされています。東京で人材サービスのお仕事の後、糸島ではたくさんの方々と関わりを持つ仕事をされてきました。藤瀬さんは20歳のとき、興味のあることに触れることを意識していたそうです。

このお話を聞いて、コミュニケーションは人と人のつながりを持つこと、自分の表現方法が大事なので、「どのような自分をどう見せたいか」ということから実行していくべきだと思いました。

♡ちよこっと冬訪問オフショット♡

福ふくの里で原田店長から菜の花プロポーズ?!
深澤リーダーはまんざらでもない様子でした(笑)



5. 夏訪問 写真 ～2019 夏の訪問 (9/15-9/18)～





6. 相生祭 写真

相生祭 2019





相模女子大学

×

糸島



7. 冬訪問 写真

❄️ 2019 冬の訪問 ❄️ (2/25-28)





8. お世話になった方々

糸島市役所の方々に加えて、2019 年度は糸島市を拠点とした地域活動を行う「いとしまちカンパニー」の皆さんにもご協力いただきました。

主にインタビュー先のアポイントメント取りや訪問先への事前事後挨拶、移動手段の手配、訪問先への付き添い、相生祭での地域物産展まで、様々なところでたくさんお世話になりました。

糸島市役所 秘書広報課 ブランド推進係



いわた ひであき
岩田 英昭さん



はせがわ なみ
長谷川 奈美さん



おか ゆうすけ
岡 祐輔さん

いとしまちカンパニー合同会社



しもだ えいいち
下田 栄一さん



ふくしま りょうじ
福島 良治さん



せどはら ひろゆき
後原 宏行さん

「いとしまちカンパニー」とは
地域活性に向けたプロジェクトを主な活動としている会社です。
取り組みの中で、糸島市と NTT 西日本と 3 者協定を締結しています。
糸島の中心市街地活性化にむけてオープンコミュニティスペース「みんなの」
を運営しています。ホッと一息できるあたたかい場所です。
是非一度足を運んでみてください。



「みんなの」Facebook⇒

9. プロジェクトを終えての感想

管理栄養学科3年 深澤多絵



1年生の時からこのプロジェクトに参加して、普通の大学生ではできない経験を沢山させていただき3年間で自分自身とても成長できました。学生の身で真剣に、時には泣きながら「人生・生き方」について話せる環境がある糸島プロジェクトは私の人生でとっても素敵な経験となりました。ありがとうございました！

健康栄養学科3年 吉原なる花

2年間プロジェクトを継続し、多くの人生の先輩方にお話を聞くことの楽しさを知り、考え方も広がりました。私生活でも考えることが増え、以前より行動力も身につきました。副リーダーとしての活動も充実したものになりました。



日本語日本文学科3年 田中美羽



たくさんの方のお話を聞いて、自分の考え方や生き方を見つめ直す良い機会になりました。

ここで得た経験やご縁を今後も大切にしていきたいと思います。

社会マネジメント学科2年 中村紬衣



このプロジェクトを通じて様々な方と出会い、交流の場を広げ、さらに自分について深く考えることができました。これからの人生を豊かにするため、糸島で得たヒントをもとに頑張ります！

メディア情報学科2年 水木愛

初めてのプロジェクトで、面倒くさがりだった私を成長させてくれました。たくさんの職種、考えを持つ人に出会い、働き方や生き方と共に糸島の魅力を全身で感じました。



健康栄養学科1年 鎌田朝子

沢山のインタビューや出会いを通して、今後の自分についてより考えることができました。大切な時間となり、携わってくださった方々、先輩方や友達に感謝しています。



社会マネジメント学科1年 松下稚奈

「何か違う自分に出会いたい」との思いで飛び込んだプロジェクトでした。私の中で将来の自分について考えることができ、大きく選択肢が広がりました。心を開けた機会に感謝しています！





糸島プロジェクト公式Facebook
[相模女子大学 糸島プロジェクト]

糸島プロジェクト2019